

## 新刊紹介

H・カンプフォール 著  
斎藤二郎・福住隆二 共訳

### 地盤注入 <<基本理論と施工技術>>

従来、地盤注入工法は、その施工技術の難しさとともに、高い工事費のために敬遠されがちであったが、最近における建設工事の増加に伴って、その需要が増加し、大きな効果をあげた施工実例が、報告されるようになった。また反面、失敗した例もかなり見受けられるようである。しかし地盤注入工法は、適確な利用と、確実な施工技術とによって施工される場合、得られる効果は非常に大きく、今後さらに注入材料の開発、注入技術の改善等によって、大いに期待される工法の一つである。現在わが国における地盤注入工法に関する参考書が、現場における施工実績の報告が多く、実際に注入を計画し、実施する場合に必要な施工技術に関するものは殆んど見受

けられなかっただけに、本書の翻訳は非常に時宜を得たものと言える。内容は、第1部「総論」で、注入可能な土質、注入の種類等、注入工法に必要な基礎知識について説明し、第2部「注入の理論と原則」では、注入圧、流入の理論、注入に必要な実験と、注入された土質の性状について述べている。第3部「注入の技術」では、岩砂、礫等に対する注入技術について、第4部「グラウトとその材料」で、グラウトの特性について、セメント、ベントナイト、および、種々の化学製品を基材とする液状グラウト等の材料、性質、配合等について述べ、さらに注入用器材、諸設備の問題について解説している。

本書は、訳者序文でも書かれているように、著者のフランスにおける多大な経験をもとに、施工技術に関する資料が豊富に盛り込まれており、地盤注入工事を計画、あるいは研究される方々にとって、貴重な参考資料となるものと思われる。 [H]

鹿島出版会刊、A5判・407ページ、定価 2600円

谷 藤 正 三 著

### 交通工学総論

土木工学という言葉で総括される広大な分野の中でも、最近専門が分化・細分化される傾向が目立つことは、次々と分化・深化してゆく専門分野を集成して、短期間に教育しなければならない教育の場では、なおいっそう大変な問題であり、広く浅く教育する現実は今日の大きな課題であろう。本書はこの辺の事情をふまえたうえで、特に“交通工学総論”として分化する専門分野の一つにまとをしほり、著者の幅広い活動分野をして入手できた豊富な資料を駆使し、平易な記述で著された大学向け専門課程前の教科書、副読本として注目に値しよう。本書によって交通全般にわたる大きな流れを知ることができよう。内容は以下の11章か

らなっている。

1章 近代交通への歩み、2章 交通の本質、3章 交通機関と輸送構造、4章 国土開発の長期構想と交通、5章 道路、6章 鉄道、7章 港湾、8章 空港、9章 大都市交通、10章 交通政策、11章 協同一貫運輸のための交通計画

技報堂刊、A5判・383ページ  
定価 1500円

新しい工業材料の科学  
シリーズ・A-11

### 複合材料 II —土木建設用材料—

各種の材料を扱う本シリーズのうち今般発刊された本冊は、(1) 金属と無機質の複合材料としての各種コンクリート(ボール、パイル、PC製品および網入ガラス)、(2) 無機質と無機質(石綿セメ

ント管・スレート、けい酸カルシウムおよび塩基性炭酸マグネシウム石綿製品)、(3) 無機質と有機質(強化プラスチック製品、石綿アスファルト・塩化ビニール製品、積層安全ガラス製品、土建用エポキシ樹脂製品)などに分類される数十種の複合材料を、実際に製造にたづさわる現業の技術者が各編ごとに分担して記したものである。

内容は、1. コンクリートボールおよびパイル、2. プレストレストコンクリート製品、3. 石綿セメント管、4. セメント・石綿(石綿スレート)、5. けい酸カルシウム石綿複合材料、6. 塩基性炭酸マグネシウム石綿複合材料、7. 建築用強化プラスチック、8. 網入ガラスと積層安全ガラス、9. 石綿アスファルト、石綿塩化ビニール製品、10. 塗装鋼板、11. 土木建設用エポキシ樹脂からなっている。

金原出版刊、A5判・326ページ  
定価 2300円

土木学会編

## 構造実験指導書

土木学会編

## 測量実習指導書

<最新刊>

45年2月末発行予定 予価 450円

45年3月末発行予定 予価 450円